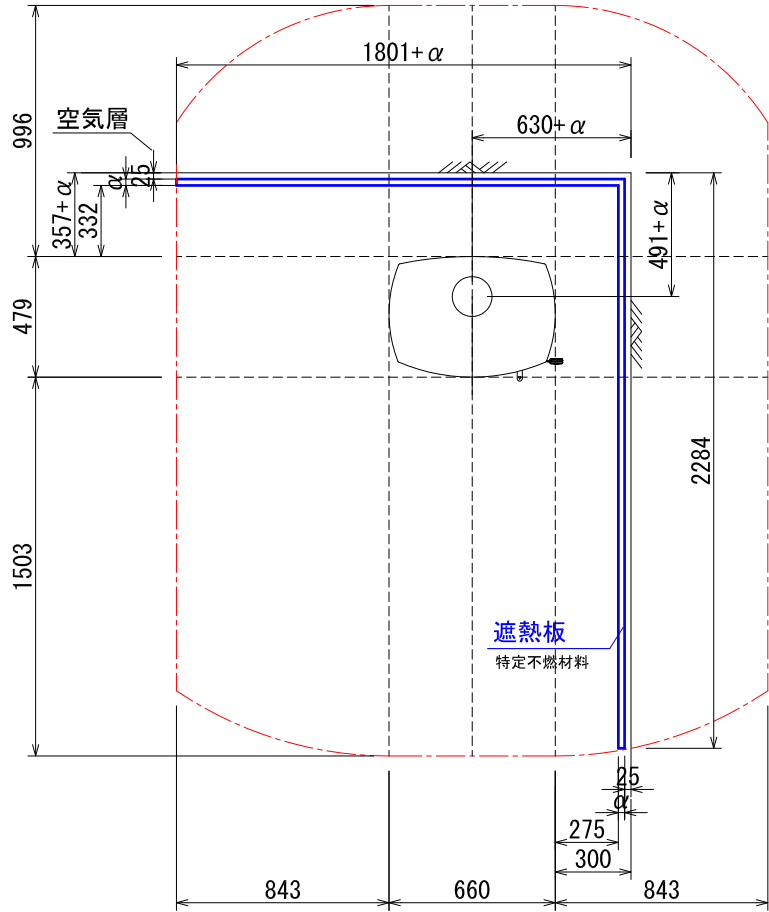


***ストーブ等可燃物燃焼部分**

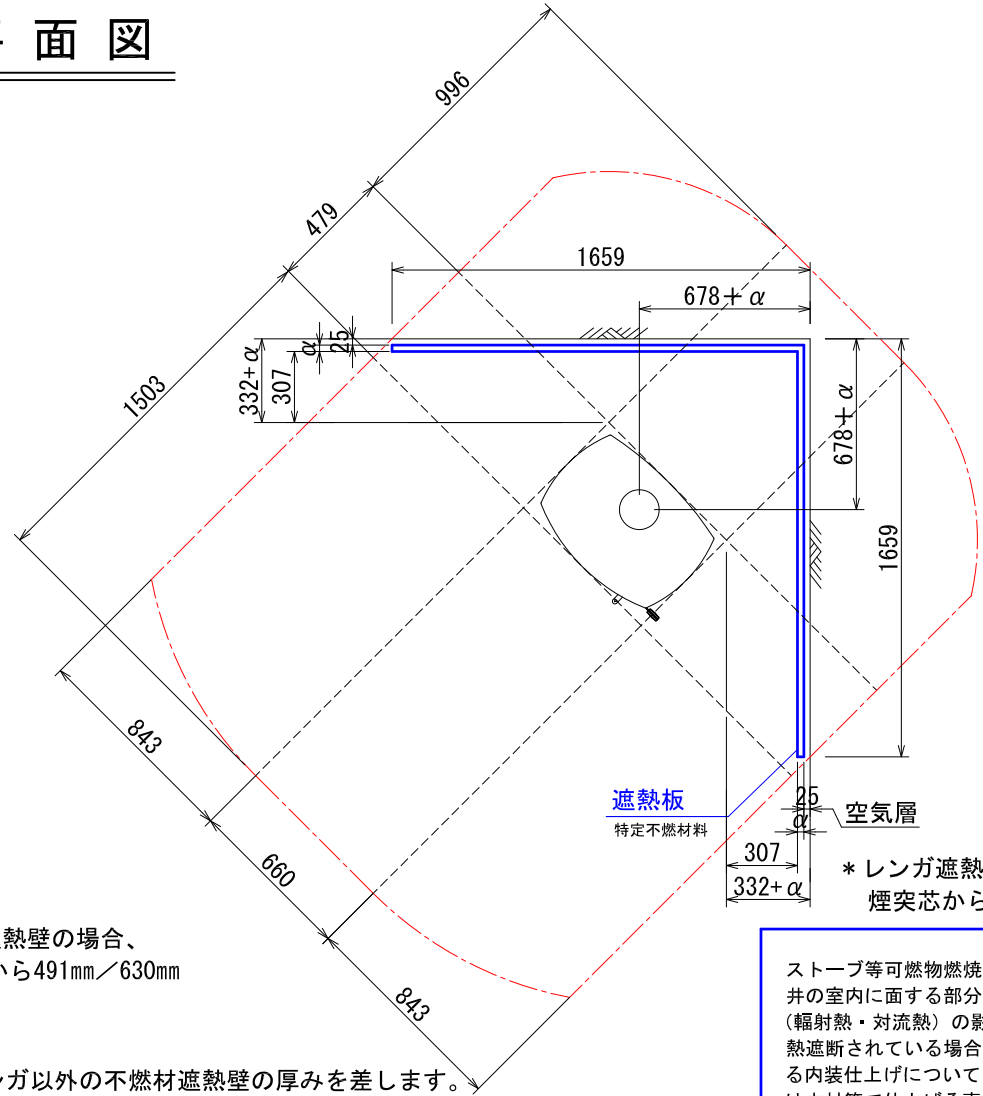
ストーブの輻射熱・対流熱により燃焼する可能性のある範囲を表す。

平面図



*レンガ遮熱壁の場合、
煙突芯から491mm/630mm

*: αはレンガ以外の不燃材遮熱壁の厚みを差します。



*レンガ遮熱壁の場合、
煙突芯から678mm/678mm

ストーブ等可燃物燃焼部分の壁及び天井の室内に面する部分に対する火熱（輻射熱・対流熱）の影響が有効に遮熱遮断されている場合、室全体における内装仕上げについては、難燃材料又は木材等で仕上げる事が出来ます。

RAIS:Q-TEE2C US 内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱寸法と離隔距離一覧

A v		A h		H s		
側面	正面	側面	正面	側面	背面	
281,060mm ²	392,288mm ²	316,140mm ²	843mm	1503mm	996mm	1181mm

Av=ストーブ鉛直投影面積 Ah=ストーブ水平投影面積 Ls=ストーブ等可燃物燃焼水平距離 Hs=ストーブ等可燃物燃焼垂直距離
Ds=ストーブ等可燃物燃焼基準距離

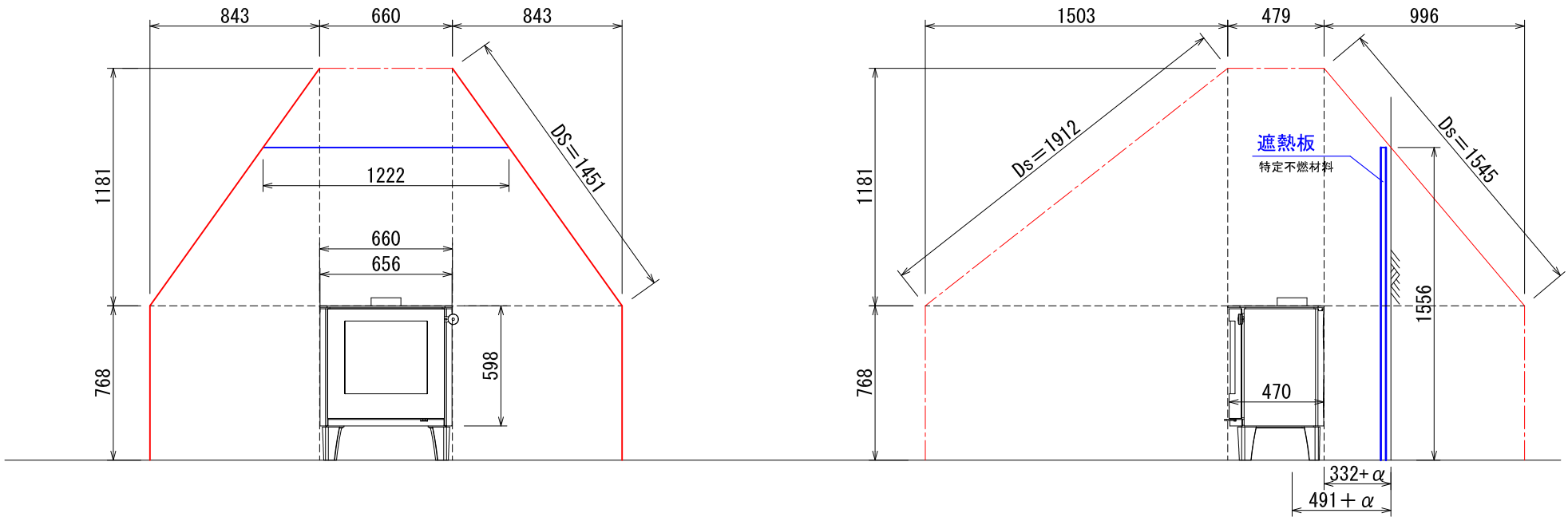
図面名	Q-TEE2C US 内装制限告示内容に基づく設置図面
縮尺	1/30

ダッチウエストジャパン株式会社

正側面図

*ストーブ等可燃物燃焼部分

ストーブの輻射熱・対流熱により燃焼する可能性のある範囲を表す。



*レンガ遮熱壁の場合、煙突芯から491mm

*: αはレンガ以外の不燃材遮熱壁の厚みを差します。

ストーブ等可燃物燃焼部分の壁及び天井の室内に面する部分に対する火熱（輻射熱・対流熱）の影響が有効に遮熱遮断されている場合、室全体における内装仕上げについては、難燃材料又は木材等で仕上げる事が出来ます。

RAIS:Q-TEE2C US 内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱寸法と離隔距離一覧

A _v		A _h	H _s			
側面	正面		側面	正面	背面	
281,060mm ²	392,288mm ²	316,140mm ²	843mm	1503mm	996mm	1181mm

Av=ストーブ鉛直投影面積 Ah=ストーブ水平投影面積 Ls=ストーブ等可燃物燃焼水平距離 Hs=ストーブ等可燃物燃焼垂直距離
Ds=ストーブ等可燃物燃焼基準距離

図面名	Q-TEE2C US 内装制限告示内容に基づく設置図面
縮尺	1/30
ダッチウエストジャパン株式会社	

内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱壁寸法と離隔距離計算表

機種	RS834L : Q-TEE2C US	最大熱出力/時間	6,900 Kcal/h 8.0 Kw
		最大熱出力/ 秒	1.92 Kcal/s

Av : ストーブ鉛直投影面積

$$Av \quad (\text{側面}) = 470 \times 598 = 281,060 \text{ mm}^2$$

$$Av \quad (\text{正面/背面}) = 656 \times 598 = 392,288 \text{ mm}^2$$

Ah : ストーブ水平投影面積

$$Ah = (\text{アッシュリッパ、リアヒートシールドを含めた最大奥行き}) \times (\text{最大横幅})$$

$$Ah = 479 \times 660 = 316,140 \text{ mm}^2$$

Ls : ストーブ等可燃物燃焼水平距離

$$Ls \quad (\text{側面}) = 1.59 \times \sqrt{Av(\text{側面})} \quad \cong \quad 843 \text{ mm}$$

$$Ls \quad (\text{正面}) = 2.4 \times \sqrt{Av(\text{正面/背面})} \quad \cong \quad 1503 \text{ mm}$$

$$Ls \quad (\text{背面}) = 1.59 \times \sqrt{Av(\text{正面/背面})} \quad \cong \quad 996 \text{ mm}$$

Hs : ストーブ等可燃物燃焼垂直距離

$$Hs = 0.00106 \left(1 + \frac{1000000}{Ah + 80000} \right) Ah \cong 1181 \text{ mm}$$

Ds : ストーブ等可燃物燃焼基準距離

Ds = 図面を参照ください。

発熱量、15,480kcal/s 以下のストーブ